

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171400454		
法人名	社会福祉法人 みのり福祉会		
事業所名	グループホームみのりかじか(1階 三徳)(2階 かじか)		
所在地	鳥取県東伯郡三朝町山田653-1		
自己評価作成日	令和 7 年 2 月 6 日	評価結果市町村受理日	令和7年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	bl/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=31
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人いなば社会福祉評価サービス
所在地	鳥取県鳥取市湖山町東2丁目164番地
訪問調査日	令和7年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の思いを大切にし、安心安全な生活が送れるよう支援している。また、ご家族様へご利用者様の状況を細目に報告・相談し、情報共有に努めている。コロナ禍以降、ご家族様の施設内での面会は制限がされているが、ご利用者様およびご家族様の繋がりを大切にするため、ロビーでの面会をしていただいているほか、オンライン面会を実施している。 ご利用者様の生活の質を保つため、三密に配慮しつつ行事やレクリエーション活動を提供している。お風呂はラジウム温泉を源泉からひいており、心身ともに寛いでいただいている。 年間を通して温度、湿度の管理に努めている。近年はコロナ禍にあり、感染予防のため一ヶアー手洗い及び手指消毒を徹底し、手が触れるところの消毒を適宜行っている。また、1時間に5分程度換気を行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本施設は、三朝温泉街の入り口に位置しており、利用するお風呂の湯は源泉のラジウム温泉水となっている。現在、新型コロナウイルス感染症の指定が、2類から5類に移行されているところであるが、感染予防のため、引き続き、面会等必要に応じて制限が設けられている。しかしながら、本年度は、可能な限り積極的に、地域交流、家族交流会等に際し、その支援に努められている。また、四季折々の様々な行事を施設内に於いて企画するなど、施設利用者・関係者共々が楽しまれていた。なお、施設内に「かじか農園」を設置・運営されており、野菜などの苗植から収穫までの体験を行う園芸療法や地域イベント「コスモスプロジェクト」に参画し、花を植える園芸活動などが行われていた。また、2ヶ月毎に広報誌「みのりかじか通信」を発行し、これにより、利用者の外
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成29年度より理念を作成し、令和6年度に見直しを行った。 朝礼時に唱和を行い、職員全員に意識づけができるようにしている。 職員会議、ユニット会議で振り返りを行い日々の支援に繋げている。	玄関と事務所、リビングに法人全体の理念をふまえた事業所全体の理念を掲げ、朝礼等に唱和している。また、職員会議、ユニット会議で振り返りをしながら、日々の支援に繋がられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症は5類になったが、地域の行事が減ってきていることに加え、ご利用様の心身の状況により、参加することができていない。ただし、施設の行事に地域の方を招待し、交流を図っている。 毎年、町内の一斉清掃へ職員が参加している。	町内会に参加されている。デイサービスと共同で敬老祝賀会を施設内で行われた。利用者家族、地域住民等を招待し、利用者と共に楽しまれている様子が伺えた。また、町内の一員として一斉清掃へ職員が参加された。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以降、音読教室での認知症予防支援や認知症カフェの開催ができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて活動報告や事故報告等を行い、質問に対して返答を行っているが、助言や意見がなかなか出てこない。	運営推進会議は、2ヶ月に1回、対面で開催され、利用者の状況、活動報告や事故報告等を行い、全職員はそこでの意見をサービスの向上に繋がられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	様々な形で情報提供やアドバイスをいただいている。ご家族様やご利用者様からの質問等や困りごとがある場合、役場に相談するようにしている。	市町村担当者は、運営推進会議のメンバーであり、日頃から連絡をとりあわれている。後見人制度を利用されている利用者等困りごとや相談をされるなど、協力関係を築かれながら取り組まれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月隣接するデイサービスセンター三朝みのりと合同で委員会を開催している。 施設内勉強会及び研修会を実施し、職員への周知に努めている。 居室等に人感センサー(ベッドセンサー)を設置する場合、ご利用者様やご家族様に了承を得ている。	隣接するデイサービスセンター三朝みのりと合同で毎月委員会を開催し、全職員は周知できるよう身体拘束をしないケアに取り組まれている。また、歩行困難な利用者等については、居室に人感センサー(ベッドセンサー)、見守りセンサーを設置し、利用者が安全に生活できるよう、利用者家族の了承のもと行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月隣接するデイサービスセンター三朝みのりと合同で委員会を開催している。 施設内勉強会及び研修会を実施し、職員への周知に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に参加している。成年後見制度を現在1名の方が利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の面談や施設内見学、電話にて聞き取りや質問等を受け付けている。 契約時に重要事項やリスク等説明を行い、納得いただいてから契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年満足度調査を実施し、ご意見やご要望を聴取している。いただいたご意見等は職員会で周知し、改善点を話し合っている。さらに、話し合った改善内容を結果等をご家族様へ送付し、施設内にも掲示している。	毎年、利用者家族に満足度調査を実施され、そこでの意見をもとに改善に向けて話し合われている。尚、結果は、利用者家族に送付の他、施設内に掲示されている。家族交流会は年2回行われ、敬老祝賀会、そして今後リング狩りが予定されている。利用者家族の参加が少ないのが現状である。	家族交流会の参加者が増えるような工夫をされたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や職員会で意見、要望を聴取している。必要があれば管理者若しくは施設長が本法人本部へ挙げている。	管理者は職員からの気づきや意見、要望をユニット会議や職員会で聴取される他、年2回、施設長と職員の面談が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人は資格取得に向けた支援を行い、職員が望む研修に参加できるようにしている。 取得した資格に応じて手当が支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は施設を訪問して職員の勤務状態を把握に努めている。 法人は資格取得に向けた支援を行い、職員が望む研修に参加できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の高齢者福祉部会などにおいて他事業所職員との意見交換会を行っている。 他法人との相互研修は未実施。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談をする際はご利用者様の生活の場に赴き、できるだけ直接面談を行っている。面談が出来ない場合は、担当職員等から本人様の生活歴や希望等を聞き取りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所時にご家族様からご利用者様への思いをお聞きし、ご要望など伺っている。また、入所後も遠慮されることなく、ご意見等いただきたい事をお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の聞き取りをご利用者様やご家族様、難しい場合は担当職員等から行い、希望される生活がグループホームに入られてからも送っていただけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が所有している力を発揮するために必要な支援を提供し、自立支援及び重度化防止に努めている。 ご利用者様と職員がともに家事などに取り組み、家庭的な雰囲気づくりをしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時にご利用者様の思いをご家族様へ伝えるなど、両者の絆が途切れないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	積極的に面会を勧めている。	馴染みの人や近隣等の面会、手紙のやりとりや電話等を積極的に勧められている。また、墓参りや三朝町認知症カフェに参加する利用者についても支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の良好な関係を築くため、職員が間を取り持ったり、得意不得意に合わせてそれぞれが主となって活動できるレクリエーションを各種提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	困った事や、何かあれば相談に来ていただくようお話しをしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で表情や仕草などから汲み取り、ユニット会議などで本人様の希望にそったケア内容を検討し、提供している。	一人ひとりの興味のあること、出来そうなことを把握し、ユニット会議でその人らしく暮らし続けるには利用者はどうしたらよいか等検討し、実践に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談はコロナ禍以降難しい施設があるが、できるだけ直接面談を行っている。面談ができない場合は、担当職員等から本人様の生活歴や希望等を聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で職員が気付いたことをユニット会議などで話し合い、ご利用者様の心身状況や認知症の進行具合について情報を共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が気付いたことをユニット会議などで話し合い、ご利用者様の心身状況や認知症の進行具合について情報を共有している。また、ご家族様とも情報を共有し、現状を基希望を伺って計画作成している。	月1回ユニット会議が行われ、利用者の心身状況や認知症の進行具合について情報共有されている。また、普段の生活の中で何気ない動作を見逃さないようケアプランに盛り込み、介護計画の見直しを6ヶ月に1回行い、現状に即した介護計画が作成されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が気付いたことを個人記録に記載し、申し送ったり、ユニット会議などで報告することでご利用者様の心身状況や認知症の進行具合について情報を共有している。気付いたことをもとに計画書の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様やご家族様の希望に応じ、必要な支援ができるよう体制を整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がおられるが、後見人およびご家族様と協力し、安心して暮らしていただけるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調に変化があった場合はご家族様へ報告、相談し、必要及び希望に応じて受診している。	受診は、本人及び家族の希望するかかりつけ医となっている。担当医による月1回の往診の他、外来受診を希望の利用者には、職員が同行受診し、結果はその都度、家族に報告されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医および主治医に報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での生活状況を書面で情報提供している。医療機関と連携してご利用者様やご家族様の希望に沿った退院先の検討を行っている。 さらに入院中の洗濯等について、ご家族様が対応できない場合は職員が対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期が近いと職員が判断した場合、かかりつけ医(主治医)からご家族様へ状況報告を説明していただき、ご家族様から本人様及びご家族様の意向を伺っている。 希望された場合は施設で看取りをさせていただいている。	入所の際、重度化した場合、事業所で出来る事とできない事を本人・家族に説明されている。終末期に向けて、かかりつけ医、家族等と方針を共有し、支援されている。希望により、家族は付き添い等を含め、看取りの支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習はできていないが、緊急時の対応方法を施設内勉強会で講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いで避難訓練を年2回実施、施設内勉強会を定期的に行っている。 地区での防災に関する勉強会に参加している。	年2回、避難訓練を実施されている。本年度は11月に消防署立ち合いで総合訓練を実施し、3月には夜間想定で水害の避難訓練も実施予定である。実施後は、反省点・改善点を話し合う他、火災受信機等の取扱いについても資料を全職員に配布されている。備蓄はある。	火災受信機の基本操作方法について、全ての施設職員を対象とする研修等を行うよう要請します。緊急時の非常口使用にあたり、重度の施設利用者の避難時の的確な搬出方法等について、専門機関である(所轄の消防署)消防に相談し、その指導を仰がりたい。
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会及び身体拘束廃止・虐待防止委員会が先頭に立って職員の意識向上を図っている。	接遇委員会では、前年の実績を元に年間の目標を話し合い、2ヶ月ごとに目標を定め、実践に向けて取り組まれている。また、身体拘束廃止・虐待防止委員会では、日常生活における不適切ケアについての寸劇を交えて勉強会を行い、様々な事例について意見を出し合い、一人ひとりを尊重してケアに努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者自身が自分の思いを話しやすいように、又自分で決められるような声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の希望に沿って日々の活動を提供し、できる限り一日の流れも本人様の希望に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる限り本人様に衣類の選択をしていたきいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の関りの中で聞き取った嗜好品を提供するようにしている。	食事は日頃の会話の中で希望を聞き取り、職員の手作りの物を提供されている。季節行事や誕生日の特別メニューの他、利用者と一緒にかじか畑で収穫したさつま芋と季節の食材でバーベキューを楽しまれた。また、おやつ作りをされる等、食事が楽しみなものになる様、支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養アセスメント担当者が中心になって、メニューを作成し、実際の食事量や食事の様子をユニット会議等で話し合い、メニューの作成の参考になっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できるところまでご利用者様自身にしていいただき、できないところを介助している。 口腔内の状況把握に努め、必要に応じて受診を促している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレにて排泄できるよう取り組んでいる。また、オムツ対応の方であってもタイミングをみてトイレ案内を試みている。	排泄チェックシートにて排泄パターンを把握し、個々に沿った声掛けをされている。以前はオムツ使用の利用者も日中はパンツ着用でトイレでの排泄が出来るようになり、排泄の自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や食事形態、運動の様子を確認し、主治医と相談しながら排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望にそって入浴ができるように支援している。また、ゆず湯やしょうぶ湯など季節感も味わってもらっている。	入浴は、ラジウム温泉にて主に午後に行われ、1週間に2回以上入浴できる様、支援されている。また、難しい場合は、清拭、シャワー浴で対応し、清潔保持に努められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の生活パターン合わせ、就寝や起床時間に無理がないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報書をケース記録にとじ、いつでも確認できるようにしている。新しく処方されたら記録し、内容を申し送っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の役割や生活に張り合いが持てるように得意なことや好きな活動を中心に提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の希望にそって買い物等の外出に出掛けている。 病院受診の際などのタイミングを利用して買い物外出の機会を設けている。	日常の散歩の他、ゴミ出しの際、一緒に外出されている。また、病院の受診時の買い物外出や嗜好品、衣料品の買い物外出にも個々に対応されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方はお金を所持されているが、管理できない殆どの方は職員が預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話をしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明やテレビの音量等気をつけている。ソファ、テーブルの配置などに気を配っている。	共用の空間は、大きなガラス窓から明るい光が差し込み、壁には季節の飾りが飾られている。また、ソファや小上がりの畳スペースが設置されており、ゆっくりくつろげる設えとなっている。利用者は思い思いの場所で、テレビやパズルを楽しまれたり、新聞を読みながら過ごされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の椅子、ソファ等それぞれ自分の落ち着く所が見つけられるようにしている。季節によっては陽あたりのいい椅子に移動し、日差しを浴びれるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの物を持参していただき、自分の家のように感じてもらえるよう工夫している。	居室はエアコン、換気扇、ベッド、クローゼット、洗面台が設置され、温度・湿度計を確認しながら空調管理されている。室内には、本人の利用していたタンス、クローゼット、楽器の他、仏壇が持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、手すりが設置されている。トイレなど1人で行きたい場合に、お一人でも行けるよう掲示をしている。		